

問一 傍線部 a～e のカタカナを漢字に改めよ。

e	a	b	c	d
<input type="text"/>				

問二 傍線部 1 「大相撲をはじめて見にいったとき、びっくりした」とあるが、ここからどうい
うことが読みとれるか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答
えよ。

イ 大相撲や歌舞伎のような伝統芸能は、観客の集中度の低さからもわかるように、近代芸
術に比べれば低次元の感動しかもたらさないということ。

ロ 大相撲においては、かつて存在していた芸術鑑賞の制度が崩壊してしまい、観客が勝負
に集中することが不可能になっていくということ。

ハ 食事などをしながら大相撲や歌舞伎を楽しむという態度は、芸術の享受を阻害するもの
であり、改められるべきだということ。

ニ 近代的な芸術鑑賞の制度になれた人間にとっては、前近代的な娯楽の享受のしかたは違
和感を感じさせるものだということ。

ホ 芸術作品に没入し、それをあらゆる感覚を駆使して享受することが習慣になってしま
うと、大相撲の楽しみかたにとまどうということ。

第一講

練習問題

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、「重要語句」については、後ろの『重要語句メモ』を参照のこと。

ある医師(例)ありけり。病む者あれば、上下かみしもえらまず、いとせちに心を尽しけり。いといたう1

卑いやしき者の病めるありけり。薬箱いいだいて薬調てうするに、その母なりける老母のつくづくと見aて

居ゐしが、ゐbざり出いでて、「はばかりながら、ねぎ思ふことこそ侍cれ」とて、いと言ひかねた

るを、「何なんのことにてもあれ、思ふことはうちあらはして言ひね」と言dへば、つつましげに声こゑ

ふるはして、「下2に組み置き給ふ箱の御くすりも賜たまへかし」と言ひけるにぞ、思はずほほゑみ

て、「さらば与へん」とて、下3にありしがうちの、障さはりなき薬二つ三つとり出でて調ぜしが、「必

ずその薬はし3るしあるべし」と語りぬ。かくおろかなる者に、「この病やまひには何といふ方劑ほうざい調いず

ることなり。それは何々の薬を用ふ。この箱の上のかたに、おのづから入eれ置えきたれば、とり

出だして調ぜしなり。下に組みたる箱のとて、尊たかき卑たかしきのへだてなし」と、まめだちて言ふと

も、い5かでか聞きわくべき。障ないりなくばその心fにまかするにてこそ、をかしかりけれ。

〔出典〕

『花月草紙』

〔重要語句〕

○いと

○せちなり

○いたし

○居る

○侍り

○給ふ・賜ふ

○障り

○しるし

○かく

○おのづから

○まめだつ

○いかで

○をかし

問一 傍線部 a～f の動詞の活用の種類と活用形を、(例)にならって、それぞれ記せ。

(例) ラ行変格活用・連用形

e	c	a
行	行	行
活用	活用	活用
形	形	形
f	d	b
行	行	行
活用	活用	活用
形	形	形

問二 傍線部 3「しるし」・4「おのづから」の意味を記せ。

3	
4	

問三 傍線部 1「いといたう卑しき者の病めるありけり」・5「いかでか聞きわくべき」を現代語訳せよ。

5	1